

## 会 告

# ジオテキスタイル技術委員会の委員公募のご案内

## ジオグリッド補強土壁の安全裕度の定量評価に関する検討委員会

ジオテキスタイル技術委員会は、ジオテキスタイルに関する技術的な課題について検討を行うために設置されている常設の委員会です。第1期（平成10～12年度、館山勝委員長）では、補強土工法、排水工法、試験法に関する現状把握と課題の抽出が行われました。第2期および第3期（平成13～15年度、平成16年度～18年度、古関潤一委員長）では、限界状態設計法の導入ならびにジオテキスタイルの標準的な試験方法が検討されました。第4期および第5期（平成19年度～21年度、平成22年度～24年度、宮田喜壽委員長）では、LCC（ライフサイクルコスト）に関する検討ならびにジオグリッド補強土壁構造物の環境性能に関する検討が行われました。それらの成果は報告書にまとめられ、会員諸氏に公開されています。

今期は、ジオグリッド補強土壁を対象に「安全裕度の定量評価に関する検討」として、活動します。このテーマに積極的に取り組もうと考えておられる方のご参加をお願い申し上げます。参加ご希望の方は、下記の連絡先に、氏名、所属、連絡先（住所、電話、FAX、電子メールアドレス）を記載のうえ、ご連絡をお願いします。

### 1. 委員会名称

ジオテキスタイル技術委員会

ージオグリッド補強土壁の安全裕度の定量評価に関する検討委員会ー

### 2. 活動期間と委員会開催予定

3年間（2016年3月まで）、全体委員会を年2回、WGを年4回程度開催

### 3. 活動方針

近年、我が国では兵庫県南部地震、新潟県中越地震、東北地方太平洋沖地震など、設計震度を超える大地震が度々発生している。さらに、近年では集中豪雨の発生回数も増加傾向にあり、補強土構造物は厳しい外的作用にさらされている。ジオテキスタイル補強土壁の耐震設計は、一般的に水平震度0.2を用いて行われているが、多くの補強土構造物が高い耐震性を示している。また、補強土構造物の排水機能は上限があるにも関わらず、多くの補強土構造物が高い耐降雨性を示している。

これらを鑑み、平成25年度からのジオテキスタイル技術委員会では、ジオテキスタイル補強土壁の安全裕度の定量評価に関する検討を実施し、ジオテキスタイル補強土壁の安全裕度を把握することを目的とする。

連絡先：篠田昌弘（（公財）鉄道総合技術研究所）

Fax 042-573-7248 E-mail shinoda@rtri.or.jp

〒185-8540 東京都国分寺市光町2-8-38 (Tel 042-573-7261)